

## アトピー性皮膚炎が起こるわけ



## ■ アトピー性皮膚炎は

- 生まれつきの肌の性質と、
- アレルギーをおこしやすい体質
- アレルギーの素（アレルゲン）が組み合わさって起こってきます。

## ■ 生まれつきの皮膚の性質

- 脂肪成分の分泌が少なくカサカサになりやすい。
- 汗の分泌がうまくいかない。
- 細菌、かび、ウイルスに感染しやすい。

## ■ アレルギーを起こしやすい体質

- 家族にアレルギーの病気が多い。  
・アトピー性皮膚炎 ・ぜんそく ・花粉症
- IgE抗体を過剰に造ってしまう。

## ■ アレルギーの素（アレルゲン）

- 腸から吸収されるもの  
タマゴ、ミルク、ダース、コムギ、コム、クサリ。
- 皮膚から吸収されるもの  
ダニ、ホコリ、サッケン、カビ、薬.....
- 吸い込むもの  
ダニ、ホコリ、カブ.....

■ 生まれつきの肌の性質やアレルギー体質は遺伝します。両親や兄弟にアトピー性皮膚炎のある子どもは要注意です。

■ アレルゲンは2歳未満の乳児では食餌性、2歳を過ぎるとダニやほこりが重要になってきます。

■ 子どもの成長を祝う昔からの七五三は、3歳で食事性アレルギーの卒業、5歳で皮膚が丈夫になり、7歳で気管や肺が強くなる年齢に一致しています。

## アトピー性皮膚炎の症状

## ■ 主な症状

- 体がかさかさ乾燥する。
- 乳首のまわりがただれる。
- 目のまわりがただれる。
- したくちびるが荒れる。
- 顔に「はたけ」が出来る。
- 頭のふげが多く痒い。
- 眉毛の外側が薄くなる。
- 足がさめ肌のようなになる。
- くびに2～3本のしわが入る。
- 顔や腕にまるっこい湿疹が出来る。
- 肘、膝のくぼみの皮膚が厚くなる。
- 毛穴が盛り上がり鳥肌のようなになる。
- お風呂やベッドで体が温まると体が痒くなる。

■ アトピーは年齢によって症状が変わります。

乳児期

- 顔を中心に皮膚症状が出ます。  
頬に赤いポツポツが出来て、だんだんつながって赤い発疹になります。眉毛や頭に黄色いかさぶたの様な脂漏性皮膚炎(カサカサ)もできます。
- 乳児期の湿疹が（ただの湿疹）なのか（アトピーの前触れ）なのかを区別することは難しいことです。
- まず皮膚をしつとりと保つためのスキンケアをしましょう。
- 湿疹が長引く子では離乳食が始まる頃にアレルギーの検査をしてみましょう。

幼児期

- 頬の赤い発疹
- 目の外側の発疹
- 頭、胸、お腹ががさつく。
- 耳切れ
- 関節や足に線条のあせもが出来る。

小児期

- 全身にかさつきが広がる。
- 肘、膝、首のまわりに湿疹が出来る。
- 手の砂かぶれ、足のズック靴皮膚炎。

■ 乳児期の血液検査（I g E）で陽性が出た食べ物でも、少しずつ食べているうちにアトピー性皮膚炎を悪化させなくなります。食べたらずに起こるアナフィラキシーショック、全身に広がるじんましん、呼吸困難、嘔吐・下痢などがなければ、少しずつ食べて治しましょう。